

会議録（概要）

会議名等	平成23年度 第2回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会		
年月日	平成23年7月25日（月）	時間	14:00～16:00
場所	四街道市役所第二庁舎 第二会議室		
出席者	委員 渡辺委員 大野委員 齋藤委員 近委員 仲田委員 横山委員 渡邊義幸委員 金子委員 堀委員 安井委員 事務局 實川教育部長 志村指導主事 伊藤指導主事		
欠席者	委員 塚本委員 高橋委員 加瀬委員		
傍聴人	2人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 教育委員会挨拶</li> <li>3 副会長挨拶</li> <li>4 会議の公開等について</li> <li>5 議題             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 推進計画素案について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> <li>6 諸連絡</li> <li>7 閉会</li> </ol> <p>—— 会議要旨 ——</p> <p>会議次第に従い進行 志村指導主事</p> <p>事務局：ただいまから、平成23年度第2回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会を開催いたします。</p> <p>2 教育委員会挨拶</p> <p>實川教育部長：この第2回の会議は素案についての検討ということで、とても大切であると考えている。委員の皆様の意見を集めたい。</p> <p>自分の中で大切にしたいことが2点ある。1点目は、「積み上げ」。第一次計画の上になにに積み上げていくか。小学校では今年から新しい学習指導要領によって授業が行われているので、そのことや、国や県の動向も踏まえながら策定を進めたい。2点目は「つながり」。子どもたちが小さな頃から本に接し、学校に入って読書に親しみ、生涯学習につながっていく。この縦のつながりをしっかりつなげたい。関係機関の横のつながりも大切。縦、横がつな</p>			

がることで素晴らしい計画になると思う。

事務局も全力で取り組んでいくので、よろしく願いいたします。

### 3 副会長挨拶

事務局：本日は塚本会長が欠席のため、渡辺副会長より、一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

渡辺副会長：事務局からは、今日はたくさん意見を出していただきたいとのこと。たくさん意見を出していただくと、よい計画ができると思う。現場をよく知っている方々から、それぞれの立場で意見をいただきたい。

前回欠席だったので、自己紹介をすると、最初は佐倉市の教員をしていた。四街道市では、四和小のボランティアの立ち上げに関わった。また、市の学校図書館指導員も経験している。

### 4 会議の公開等について

事務局：それでは、議題に入らせていただきたいと思います。

議事の進行は、運営委員会規則第6条の規定に、「会長が議長となる」こととなっておりますので、本日は、渡辺副会長に、議事進行をお願いいたします

渡辺副会長：会議に入る前に、会議の公開等について、確認いたします。

本日の会議の公開・非公開を決定したいと思いますが、議題となる内容は、公開することにより公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生ずるとは、認められませんので、公開としたいと思いますが、委員の方々いかがでしょうか。

また、会議録における発言者名については、明記する取り扱いとしたいと存じますが、併せて委員の皆様の意見をお伺いします。

委員：異議なし。

渡辺副会長：それでは、本日の会議は公開とし、会議録には発言者名を明記することといたします。

次に会議録の署名人を指名いたします。横山委員さん、よろしく願いいたします。

横山委員：了解いたしました。

渡辺副会長：他に会議録について何かございますか。

事務局：会議録作成のため会議内容を録音したいのですが、よろしいでしょうか。

渡辺副会長：録音についていかがいたしましょうか。

委員：異議なし。

渡辺副会長：録音は行って結構です。

それでは、事務局、傍聴希望者がいらしたら、入室させてください。

【傍聴人 入室】

5 議題

(1) 推進計画素案について

渡辺副会長：それでは、議事に移ります。議題の1点目「推進計画素案について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、まず、今回の改正のポイントと、推進計画の構成について説明いたします。

改正のポイントは、①第一次計画における成果と課題を反映させる②数値目標の設定の2点です。素案として、今回提示させていただいたが、まだ作業部会での話し合いも十分でない状態。今回の策定委員会のたたき台として作成した。委員の皆様の見解をたくさんうかがって、計画を練っていきたい。推進計画の構成については、第3章までで考えている。「目標とする数値」は、第3章に含める。

※素案 もくじ 参照

渡辺副会長：ご質問、ご意見はありますか。

委員：特に意見はなし。

渡辺副会長：他にございませんか。

渡辺副会長：よろしければ、続けて第1章、第2章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第1章、第2章について説明

※素案 第1章、第2章 参照

基本方針については、作業部会で「四街道らしいものにしたい」という意見があった。合い言葉も含め、基本方針について皆様からご意見をうかがいたいと思う。

渡辺副会長：ただいまの説明について、ご質問等ございましたらお願いいたします。

金子委員：第2章について、合い言葉が表紙に二つ書かれているが、一つにした方がよいのではないか。

渡辺委員：事務局の話し合いでも、「合い言葉はあった方がよいのではないか」ということになったが、文言については、さらに練っていく必要があると考える。

渡辺副会長：さいたま市では、「さいたまの子どもは日本で一番読書が好き」としている。市川市では、「花いっぱい 歌いっぱい 読書いっぱい」、西宮市では「文教都市西宮」、岡山市では「本があって 人がいて」としている。一言でイメージがわくような合い言葉にしたい。合い言葉は大切なものである。

安井委員：「四街道」という言葉が入っていた方がよいと思う。

仲田委員：「すべての子ども」というと大きすぎる感じがする。もうちょっと具体的なめざす方向が示されると良い。

読書には、教養、楽しさ、生きる自信など、いろいろな要素がある。子どもたちに必要であると思うのは、「自ら調べて考える力」である。

金子委員：四街道市では、「子育て日本一」を謳っている。教育長も「千葉県で5本の指に入る計画を作ってほしい」といっている。「県一番」など、それに向かってがんばるといふ具体的なものを示す方がアピールできる。

近委員：子どもたちに「これが自分の宝」と思うことのできる本をみつけてほしいが、その1冊に出会うことは難しい。「多くの本の中から一生の宝になるような本との出会いをさせたい」ということが伝わるようなスローガンが良いと思う。これは、親としての気持ちですが。

齋藤委員：保育所では、保育者が本を選んで子どもに読み聞かせている。本にたくさん出会うということは大切。

四街道市の「子育て日本一」を聞いたとき、力強く感じた。合い言葉を聞いたとき、身近に感じられるものが良い。

堀委員：子どもたちにたくさん本を読んでほしいので、子どもたちが聞いてよくわかる合い言葉を一つと、それよりも少し深めた副題を考えていった方が良いと思う。対象の年齢の幅が広いので。

渡辺副会長：まずは、子どもにわかるものを一つ、ということですね。

横山委員：第一次推進計画を引き継いで、「すべての子どもに読書の喜びを」と、サブタイトルを一つ考えればいいのではないかな。

渡辺副会長：合い言葉については、これらの意見をもとに、あとは、公募するなど、事務局で考えていただけたらと思う。

實川教育部長：第1章の成果についてだが、蔵書冊数などのハード面のことを一つは入れていきたい。小学校のバーコード化についても入れていきたい。また、表記の仕方についても、ご意見をいただきたい。

仲田委員：成果の②についてだが、「すべての学校で読書タイムを実施」となっているが、以前より時間を減らしている学校もある。学校現場で一生懸命取り組んでいるかということ、そうでない学校もあるかもしれない。学校側も読書活動の推進に重きを置く姿勢があるかどうか。現状と目指しているものにギャップがあると思う。

成果の③については、今年度、小学校では教科書が変わり、調べ学習の時間が減った。学習内容が増え、ゆっくり調べたりまとめたりという時間の確保が難しくなっている。先生によっても考え方が違い、学年でそろって調べ学習に取り組むということも少なくなっているように思う。先生方の意識の中で、学校図書館の必要性が減っているのかもしれない。パソコンを使っ

調べ学習にはよく取り組んでいるが、何を調べるのかよくわかっていない子もいる。調べ学習の補助をする人が必要である。

昭和55～56年に市川市で仕事をしていたが、当時の教育長が人的な環境を整えることに力を入れていた、現在、四街道市では週2日の学校図書館指導員の配置だが、少ない。理想としては、毎日子どもたちの相談にのることができる人がいる状況が良い。ハード面も大切だが、相談にのってくれる人のいるぬくもりのある学校図書館も大切だと思う。

渡辺副会長：本当に子どもは本を読むようになってきているのかどうか。その成果は読書タイムであがっているのかどうか。お聞かせください。

堀 委員：小学校で特別支援教育支援員をしている。読書タイムを設定していても、その時間に全学級が読書をしているわけではない。他の課題に取り組んでいる学級も見られる。読書タイムを設定することで終わってしまっている。集中して読書に取り組む子どもが増えていると言い切ることは、疑問である。

渡辺副会長：成果の中に実態をもう少し細かく入れていただくといいと思う。幼稚園・保育園では、読み聞かせをすることで、読み聞かせを楽しみにする子どもが増えたか。

大野委員：子どもたちは自分で本を選んで読んだり、おうちの人と本を借りたりする中で、年長にかけて自分から本とふれあうことができるようになってくる。私は、読み聞かせを楽しみにする子どもは増えていると思う。

渡辺委員：2月に実施したアンケート調査の結果によると、「読書タイムが本を読むきっかけになった」と答えている子どもが多い。

渡辺副会長：基本方針についてはいかがですか。

金子委員：(1)については、「環境づくりに配慮します」とあるが、「環境をつくります」ぐらいの表現にしないと弱い。5の財政上の措置についても、「努めます」とあるが、「講じます」になると良い。

渡辺副会長：蔵書の充実についてだが、学校に行くと古い本が多い。せめて2000年以降の本にしてほしい。

安井委員：資料が古いので、子どもはパソコンで調べ学習をすることになる。新しい本があれば、本で調べるだろう。

仲田委員：子どもが一番影響を受けるのは先生からである。先生方の意識がもう少し高まると良い。先生たちにどのようにこの推進計画を浸透させていくか、どう意識を変えていくかが大切。

安井委員：私もそう思う。

渡辺副会長：学校では年間計画を作っているのですが、年間計画への位置づけや校内の協力的体制を整えるなどしていくと良い。このことについては、第3章の方策でもま

た出てくると思うので、先に進みます。

渡辺副会長：それでは、第3章の1について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の1について説明

※素案 第3章の1 参照

乳幼児への働きかけについては、作業部会で内容を検討中です。また、「家族読書」運動についても、これからくわしい部分を検討することになっています。

渡辺副会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。保護者への啓発ということも含めていかがでしょうか。

齋藤委員：保育所でも図書のコナーがあり、保護者の方がお迎えに来たときに本を手にとったりしている。また、ボランティアに来てもらったりしている。保護者は、本屋や図書館で、保育所で見た本と出会っている。

大野委員：保護者には読み聞かせをした本について伝えるようにしている。講演会や啓発のためのリーフレットを配布するのも良いと思う。

渡辺副会長：幼稚園保育園へ行く前の子どもが本に触れる場所として図書館があるが、横山委員、どうですか。

横山委員：図書館では、乳幼児向けということではないが読み聞かせをしたり、ボランティアに向けての講習会をしたりしている。

渡辺副会長：幼稚園保育園に行っていない子どもが何%くらい利用しているかわかるか。

横山委員：把握していない。

渡辺副会長：ぜひ四街道市でもブックスタートを始めると良いと思う。6か月健診で保護者に対してアプローチできると良い。足立区では、プレパパ・プレママ向けの講座をしている。ブックスタートを体験した子どもは、その後が伸びるといわれている。ボランティアを活用して取り組めると良いと思う。他になれば、先に進めます。

渡辺副会長：それでは、第3章の2について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の2について説明

※素案 第3章の2 参照

こどもルームにおける推進については、検討中である。

渡辺副会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

渡邊委員：図書館では、読書感想文コンクールをしているので、それを入れた方が良い。

渡辺副会長：図書館を利用されている方々、いかがでしょうか。

安井委員：図書館からのお知らせは市政だよりに載っているが、子どもに向けて図書館だよりを発行したらどうか。子どもを通して配ったり、マタニティ教室で配

ったりして、季節の本を紹介していただけると良い。

渡辺副会長：図書館では、児童の担当の方は？

横山委員：児童専門の司書ということではないが、2名ほどが関わっている。

渡辺副会長：人的にもう少し確保した方が良いということですね。

横山委員：限られたスタッフでいろいろな講座をやっているのです、なかなか厳しい。

渡辺副会長：18歳までが対象の推進計画だが、ヤングアダルト向けの本を充実させるために、その分野に強い司書がいると良い。高校生への働きかけは、図書館がやるしかないと思う。

こどもルームについては、学校でボランティアが活躍しているので、こどもルームにもボランティアが入るといいのではないかと。

渡辺副会長：それでは、第3章の3について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の3について説明

※素案 第3章の3

資料（蔵書冊数等の推移表・学校図書館指導員の配置状況） 参照

渡辺副会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

金子委員：先ほど基本方針で環境づくりについての話題が出たが、学校図書館指導員がとても大切である。市内の小中学校の学校図書館を見てきた。施設の問題もあるし、人的な配置も必要である。

方策の中に「学校図書館指導員の派遣日数や派遣時間の増加を図る」とあるが、「増加する」くらいの書き方をしてほしい。計画の期間5か年の間で、派遣日数を増やしてほしい。中学校では、学校図書館指導員がいないと学校図書館を閉めているところもある。

また、学校図書館に子どもが集まりやすいようにエアコンをつけてほしい。数値目標については、子どもの学年ごとの目標冊数を入れてほしい。読む目標になると思うので。

堀委員：「読書タイム」には、教職員も本を読むようにしてほしい。採点の時間ではないと思う。教職員の研修には、ぜひ取り組んでほしい。

蔵書冊数の目標を達成するために古い本をとっているのでは、本末転倒である。数値目標を掲げているために、活きた本が置かれていないということが起こっている。そのような数値目標なら、なくても良いと思う。現場と計画とのギャップをなくしていきたい。

實川教育部長：蔵書の達成率については、私も同じように感じている。教育委員会でも数字にこだわらず、使える本が揃うよう気をつけている。

渡辺副会長：国が基準を出している。廃棄するものは廃棄して、その上での基準であることを学校にも周知する必要がある。

他にはいかがですか。

安井委員：たまには学校の先生方に読み聞かせをしてほしい。先生の読み聞かせは、子どもの心に残るので。

渡辺副会長：最近、先生方の中でも読み聞かせをしたいという人が増えている。

渡邊委員：「研修の充実」については、学校図書館研究部と連携して進めていきたい。実際に、もう教員による読み聞かせなどに取り組んでいる学校もある。

實川教育部長：読書の日やブックスタートなどを、どこが主体的に進めていくのか。企画はたくさんあると思うが、どこが進めるか方向性をしっかり決めていきたい。

仲田委員：八木原小学校のように、市内に研究指定校があると、先生方も勉強になると思う。先生方も保護者も、研究指定校を見に行き、学校図書館を活用した授業などを見ることができると良い。どのように学校図書館を活用したらよいかわからない先生方も多い。

渡辺副会長：八木原小学校の取り組みは、その後どうですか。

事務局：八木原小学校でも取り組みは続いているし、近隣の学校に取り組みが広がっている。

安井委員：今年になってブックトークやヤングアダルトの本の講習会に参加した。そのような講習会に市から学校図書館指導員を派遣することができると良い。

渡辺副会長：袖ヶ浦市では、指導員について夏休み中の勤務一日を出張に振り替えてよいとしている。

事務局：学校図書館指導員には、研修会の情報は伝えるようにしている。

渡辺副会長：私の方からもお話をさせてください。

優良図書館マークが全校もらえるように、推進計画を立てていきたい。四街道が何が弱いかというと、一つ目は、司書教諭の活動の時間を確保していないこと。学校図書館指導員がいくらがんばっても司書教諭の活動が十分でないと効果が上がらない。司書教諭の活動の時間を確保し、ボランティアとの打ち合わせをしたり、いろいろな学級の支援に入ったりできると良い。二つ目の弱いところは、年間計画を立てているかということ。

学校で活躍しているボランティアが多いが、本当に学校に必要とされるボランティアであるために、ボランティアの規約が必要。各学校に案を出し、各学校で決めてもらうようにすると良い。

また、蔵書冊数は、良い本で達成してほしい。

渡辺副会長：それでは、第3章の4、5について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の4、5について説明

※素案 第3章の4、5 参照

渡辺副会長：図書館の団体貸出については、そのための予算は組まれているのか。



横山委員：団体貸出用として分けた予算は組んでいない。

仲田委員：図書館では1回に何十冊も学校には貸し出せないとのこと。今は学校間の貸し出しをスムーズにしようと努力している。学校連絡便を活用している。

渡辺副会長：調べ学習でたくさんの本を使う場合、学校間で本を融通しあっている。四街道市ではすぐには難しいと思うが、市によっては、学校に貸し出すための本をそろえている。

仲田委員：学校図書館に同じ本がたくさんある場合もある。それも含めて蔵書冊数としている。選書するとき、同じ本をたくさん買うことはしない。

齋藤委員：保育所では、かなり以前に図書館から何十冊か借りていたこともあったが、本が保育所のニーズとちょっと違うこともあった。最近は、保育師が必要な本を図書館に借りに行くようにしている。

大野委員：幼稚園でも同じである。

横山委員：図書館に近い園や特別支援学校への団体貸し出しを行っている。

渡辺副会長：貸出用の本が充実するような予算がつくといいですね。

渡辺副会長：それでは、第3章の6について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の6について説明

※素案 第3章の6 参照

担当者会議のメンバーについては検討中ですが、子どもの読書活動推進に係る部署が入ることになる。推進体制図は、まだ形になっていないが、子どもの読書活動の推進に係るところをすべて明示し、役割をはっきりさせていきたいと考えている。

渡辺副会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

實川教育部長：教育委員会が中心となり、図書館と学校教育課が中心になって進めていくつもりである。

安井委員：推進体制図の中に家庭も入れるとよいと思う。

渡辺副会長：塚本会長が、商店や床屋さんにも本を置いてもらうなど、地域にも協力してもらいたいとお話しされていた、子どもが本に親しむ場は、学校と図書館以外にもある。

渡辺副会長：それでは、目標とする数値について、事務局から説明をお願いします。

事務局：目標とする数値について説明

※素案 目標とする数値 参照

「目標とする数値」が、第3章の7になります。

作業部会では、数値は4つぐらいがよいのではないかという話になりましたが、いかがでしょうか。最後にまとめて入れるのではなく、方策のそれぞれ

の項目について数値目標を入れるということも考えられますが、いかがでしょうか。

渡邊委員：数値目標は、皆様からたくさん出していただいてその中から選ぶことも考えられる。この案のように、最後にまとめて入れるか、項目ごとに分けて入れるかについてもご意見をいただきたい。検証できる数値目標にしたい。

近委員：鷹の台から見ると、市の図書館は遠いので使いにくい。ドリーム号も子どもが学校にいる時間に地区に回ってくるので利用しにくい。四街道市ではなく、近隣の市の図書館を使っている。学校の力、家庭の力でそれを補っている。その点から見て、(1)の目標値はどうだろうか。

渡辺副会長：全体としての貸出冊数を伸ばすという意味であれば、(1)の目標値は可能であると思う。

堀委員：「行くことができる人は借りましょう」というのはどうか。和良比小地区も、子どもがひとりで図書館に行くのは難しいと思う。(1)は厳しいと思う。

渡辺副会長：(2)は学校ですぐに集計できる。金子委員からは、「読む冊数の目標となる数値」というご意見がありました。

幼稚園では、何か数値目標にできそうなものはあるか。

大野委員：数値というよりは、毎日本と出会うことが大切とか、親子でのふれあいが大切というようなことを訴えてほしい。中学生になると本を読まなくなるので、年齢に応じて本を読む冊数が示されると、参考にはなると思う。

仲田委員：中学生になると、図書館からは借りないけれど、自分で買ったり友達から借りて読んだりする。貸出冊数ではなく、「一人あたり〇冊」という示し方がよいのではないか。

近委員：一人あたりの読んだ冊数なら、図書館で借りたものでなくとも良いので、問題ないと思う。分かりやすいと思う。「読んだ冊数」に変えるとよいのではないか。

安井委員：ブックリストを年齢に合わせて作成し、「一人あたり〇冊読みましょう」という方が、子どもにとって目安となる。

仲田委員：県からもブックリストが出たので、学校図書館でもコーナーを作ったが、夏休み前の貸出状況を見ると、あまり借りられていない。大人が読ませたい本と子どもが読みたい本は違う。ずれがある。中学生高校生も、携帯小説のようなものを読みたい子が多い。今回リストを作成しても、子どもの読みたい本とずれが出てくると思うが、どうか。

渡辺副会長：リストに子どもの意見を反映させ、その中に子どもに読ませたい本も入れいくなど、考えていく必要がある。

毎日新聞社が毎年調査しているが、「1か月に1冊も本を読まなかった子どもの人数」を出している。本を読まない子どもの人数を減らしていくことも大

切である。

また、学校では1年に1回は調べ学習を計画的に行うようにし、本を使った授業を年間に何回行ったかを調べるのも良いと思う。

学校図書館の貸出冊数はとった方が良いと思う。小学校で平均20冊、中学校では平均10冊を超える学校は普通だが、それに届かない学校は働きかけが不足していると考えられる。パソコンが入っているので、データをとっておくことは大切であると思う。

渡邊委員：調べ学習も時代によって変わってきている。パソコンを使うことが多くなっている。

渡辺副会長：パソコンを使って資料を読むことも読書に含まれる。  
他に何かございますか。

## (2) その他

渡辺副会長：議題2点目「その他」について、事務局から何かございますか。

事務局：事務局からはありません。

渡辺副会長：委員の皆様から、ありますでしょうか。

委員：ありません。

渡辺副会長：これもちまして、議事を終了させていただきます。

## 6 諸連絡

事務局：次回の策定委員会の連絡をさせていただきます。開催日時は11月18日(金)14時からを予定しております。会場は、本日同様、この場所で行いますので、よろしくお願いいたします。

## 7 閉会

事務局：では、以上で第2回子ども読書活動推進計画策定委員会を終わりにします。  
長時間にわたりましてありがとうございました。